

問 災害復興や防災計画の構築と具現

答 復興促進、事業発動に全力



寄川 靖宏

問 福知渓谷復興の新たなマスタープランの策定を望む。

市長 市全体の活性化のためにも復旧をめざす。今安全確保に職員のプロジェクトチームを立ち上げ、調査研究中で、今後修景も含め総合的に考えていく。

問 緊急情報の整備方策は。

市長 市内全域で、音声お知らせ装置による緊急情報発信のほか、有線の限界に鑑み教訓とし、衛星電話、防災情報メール、消防団による伝達機能など、種々の検討を行う。

企画部次長 有事の緊急情報の収集と発信、ボランティアの募集など、地域SNS「E 六粟」は、市のホームページと共に今後さらに活用していきたい。

問 治山・災害防止の具体策は。



綺麗だった頃の福知渓谷

市長 県の「里山防災整備事業」など里山保全対策を進め、県と連携して山地災害箇所調査を実施し、治山事業に取り組む。

産業部長 治山ダム・砂防ダムは既に合計36カ所ピックアップしており、緊急性の高いところから実施する計画である。

問 「六粟市登山協会」の創設は。

市長 愛郷心を育み、生涯教育、スポーツ、青少年健全育成という側面なども包括し、登山愛好家の有志団体として「六粟市登山協会」の立ち上げに、広く会員募集する等、出来る限り支援していきたい。

問 福知渓谷休養センターの再開について

答 周辺の危険を承知で再開は考えておりません



木藤 幹雄

問 8月10日の台風9号による福知渓谷の被害状況をどう把握されているのか。また安全性をどのように認識されているのかおたずねします。

市長 休養センター本館については、1階部分に土砂が流入しているものの、施設の再開は可能であると判断しています。総合センターについては、河川の氾濫により壊滅的な状況で、バーベキュー施設は復旧が困難と考えています。多目的ドームは、土砂の撤去により使用が可能だと判断しています。施設周辺の安全性の確認ですが、山腹崩壊もあり降雨による災害を未然に防ぐために、山腹崩壊危険箇所の治山工事、河川に堆積した土砂、流木等の早期撤去を県に要望している。再開につきましては、周辺の安全

が確認できてからと考えています。

問 災害により多くのごみが発生しており、今後も温暖化による災害が予測されるが、今建設されている西播磨環境事務組合の施設は十分対応できるのか。

市長 一時的に多量処理とすることは難しい状況ではありますが、対応できるように環境組合で十分協議をします。処理出来ない物については、兵庫県災害応援協定に基づいて、近隣の処理施設に応援を求めて処理していきたいと考えております。



被災した福知渓谷総合センター